

10:25 弟子がその師のようになれば十分だし、しもべがその主人のようになれば十分です。彼らは家長をベルゼブルと呼ぶぐらいですから、ましてその家族の者のことは、何と呼ぶでしょう。

10:26 だから、彼らを恐れてはいけません。おおわれているもので、現されないものはなく、隠されているもので知られずに済むものはありません。

10:27 わたしが暗やみであなたがたに話すことを明るみで言いなさい。また、あなたがたが耳もとで聞くことを屋上で言い広めなさい。

10:28 からだを殺しても、たましいを殺せない人たちなどを恐れてはなりません。そんなものより、たましいもからだも、ともにゲヘナで滅ぼすことのできる方を恐れなさい。

10:29 二羽の雀は一アサリオンで売っているでしょう。しかし、そんな雀の一羽でも、あなたがたの父のお許しなしには地に落ちることはありません。

10:30 また、あなたがたの頭の毛さえも、みな数えられています。

10:31 だから恐れることはありません。あなたがたは、たくさんの雀よりもすぐれた者です。

10:32 ですから、わたしを人の前で認める者はみな、わたしも、天におられるわたしの父の前でその人を認めます。

10:33 しかし、人の前でわたしを知らないと言うような者なら、わたしも天におられるわたしの父の前で、そんな者は知らないと言います。

はじめに

先月から、聖餐式の日曜日に学ぶマタイの福音書の五大説教シリーズで、ふたつめの説教に入りました。

この教えは、イエスが弟子たちを宣教旅行に送り出す前に彼らを整えておられる個所です。

先月、福音のメッセージに焦点を絞り、イエスが望まれるところに行くことが、宣教の働きのために欠かせない準備だと学びました。

また、福音を携えて出かける働き人には、福音を支える支援者が必要だということも学びました。そして、支援者は福音宣教の中で同等に大切な働きをなしているのです。

最後に、私たちの生き方とクリスチャンとしての品性は、イエスを証する最善の証だと学びました。

私たちがイエスに似た者となっていけば、イエスの証人となることができます。

10章の残りの部分は、おもにふたつのテーマが取り上げられています。

イエスは内に潜む敵と周囲から攻めてくる敵に備えて弟子たちを整えられます。

今日私たちは、26-33節から、内に潜む敵について学びます。

イエスはこの個所で、神が望まれるようにクリスチャン人生を送ることを阻む3つの要因について弟子たちに教えておられます。

28節と31節でイエスは、「恐れてはなりません。」と繰り返しておられます。

当時の宣教旅行では、周囲からの迫害に苦しめられたでしょうが、イエスは、宣教に携わるにあたって心の中に潜む問題をまず明らかになさいました。

この個所にある3つの問題を取り上げる中で、イエスは心の中から湧き上がる恐れと向き合う弟子たちに、勇気を出すべき根拠も提供されます。

これは、2,000年前のイスラエルにおける宣教の働きでの課題ですが、そこには現代の宣教活動における課題にあてはめられる原則もあります。

1. 中傷されても恐れない。(25-27節)

25節から、イエスが「ベルゼブル」と呼ばれていたことがわかります。

ベルゼブルとは悪霊のかしらです。マタイ 9 : 34 を読むと、パリサイ人が「彼は悪霊どものかしらを使って、悪霊どもを追い出しているのだ」とイエスのことを話しています。

人々から尊敬されていた宗教指導者による中傷は、弟子たちを傷つけていたに違いありません。

悪魔はすでにイエスに従うことについて弟子たちの心に迷いを抱かせようとしていたのです。

これはサタンの性質です。サタンはイエスを信じる信徒を責める者です。

サタンは偽りの父です。(ヨハネ 8 : 44)

弟子たちは、当時の一般的な宗教から逸脱するのを恐れたでしょう。

弟子たちがイエスに従えば、人々は彼らも中傷します。

私たちも、誹謗中傷を受けると、くじけそうになります。

「聖書を真剣に信じているわけないよね？聖書が間違っているのは科学で証明されているよ。」とか、「同性愛者としての私を否定するなんて、ひどい。そういう人を世間ではホモフォビアって呼ぶんですよ。」などといったそれほど激しくはない中傷もあるでしょう。

クリスチャンはどこに行っても、神のみことばの真理を拒絶する社会でそれを教えようとすれば中傷されます。

けれどもイエスは、「恐れてはなりません」とおっしゃいます。そして、その根拠を 26-27 節に挙げておられます。

マタイ 10 : 26-27

10:26 だから、彼らを恐れてはいけません。おおわれているもので、現されないものはなく、隠されているもので知られずに済むものはありません。

10:27 わたしが暗やみであなたがたに話すことを明るみで言いなさい。また、あなたがたが耳もとで聞くことを屋上で言い広めなさい。

まず、イエスのことばの背景を理解し、私たちの状況にあてはめなくてはなりません。

イエスがこの言葉を語られたとき、パリサイ人や祭司長、律法学者たちの企てについては誰も知りませんでした。その企てとは、イエスの殺害です。

誰もが、彼らは敬虔な人たちで、ユダヤ民族の伝統を守り、誰よりも神に近い人々だと考えていました。

しかし、実際には、彼らは聖書の神からはまったく離れており、イエスを殺すという彼らの策略は歴史によって暴かれました。

イエスは 27 節で、悪魔からの中傷に対抗するには、福音を告げ知らせつづけることだと教えておられます。

私たちが告げ知らせる事柄の真理が、悩み多い人生の正当性を証明してくれるでしょう。

誰かが福音のメッセージに応答し、イエスを救い主として信じるなら、その人の人生は永遠に変えられます。

どんなかたちであれ私たちが中傷されるなら、人の人生を変える真理の力を信じなくてはなりません。

真理は、聖書に記されています。

2. 身体的な迫害を受けても恐れてはならない。(28-31 節)

福音を告げ知らせる使命を遂行しようとする人たちには、暴力を受ける等の身体的な危険があります。これは弟子たちにとって身近な脅威でした。また、現代では世界各地のイスラム教国に住むクリスチャンにとって身近な脅威です。

また、今の世の中ではイスラム教国でない場所でもいつそのような経験をするようになるかわかりません。

私は 1992 年当時、スコットランドに住んでいましたが、レンガが窓から投げ入れられ、強盗に入られました。ロンドンでは 1994 年に、顔面を殴打され倒れました。また、教会事務所は 10 歳くらいの子どもたちふたりに放火されました。

大事には至りませんでしたが、当時は多少恐怖を感じました。

イエスは弟子たちに、体に危害を加える人たち以上に恐れるべきお方がおられると教えておられます。

詩篇 34 : 9

34:9 【主】を恐れよ。その聖徒たちよ。彼を恐れる者には乏しいことはないからだ。

イエスは、身体的迫害に対する恐れを乗り越える唯一の方法は、神に対する正当な恐れを持つことだとおっしゃいます。

箴言 9 : 10

9:10 【主】を恐れることは知恵の初め、聖なる方を知ることは悟りである。

出エジプト記 1 : 17

1:17 しかし、助産婦たちは神を恐れ、エジプトの王が命じたとおりにせず、男の子を生かしておいた。

申命記 10 : 12

10:12 イスラエルよ。今、あなたの神、【主】が、あなたに求めておられることは何か。それは、ただ、あなたの神、【主】を恐れ、主のすべての道に歩み、主を愛し、心を尽くし、精神を尽くしてあなたの神、【主】に仕え、

神を恐れると、永遠という長期的な視野を持ちます。何が起こっても、神がいつの日か私たちが死からよみがえらせてくださると確信します。罪も迫害の脅威もないはるかによいいのちがあると確信します。

29-31 節で、イエスは弟子たちを励ましておられます。それは、愛と配慮のメッセージです。私たちに起こる些細なことでもすべて気にかけてくださるのです。

小さな雀や頭髪をたとえに、私たちひとりひとりの置かれた状況で神は主権を握っておられるという事実をイメージできるようにしていただきます。

雀は体長 12cm から 18cm です。

私たちの髪の毛は約 10 万本といわれます。はげで髪の毛のない人のことは気にかけていない、と言っておられるわけではありません。イエスが言おうとしておられるのは、私たちに対する神の繊細な配慮は想像以上だということです。

勇気が湧いてきませんか。

3. 興味のない人に拒絶されることを恐れてはならない。(32-33 節)

この個所に描かれた恐れはすぐにはわかりません。人に信仰を告白するのを邪魔するものは何か、私たちは考えなければなりません。暴力や申傷に対する恐れや笑いものにされることへの恐れ以外に何かあるでしょう。

それは、拒絶されることへの恐れ、または人がキリスト教に興味を持ってくれないことへの不安ではないでしょうか。

ノンクリスチャンに信仰の話をし始めると、それがどこであろうと必ず、拒否されたり、興味がないと言われたりします。

拒絶を恐れているなら、信仰について伝えつづけたいという思いがなくなるでしょう。

けれども、イエスの証を語るなら、それが天の父に伝わるのです。これは大きな励みです。

想像してみてください。ある日あなたは出かけて行って、誰かに自分の信仰について話します。するとその知らせが天国まで届き、

「ハレルヤ！ 今日、地上で誰かが自分の信仰について分かち合った！」

と喜びの声が上がります。

信仰を分かち合おうと気合を入れて出かけて行ったのに、誰も興味を示してくれなければ、がっかりします。けれども、信仰を分かち合う機会が与えられるたびに、天国であがる喜びの声が聞こえたなら、きっと恐れずに伝え続けられるでしょう。

宣教旅行で行き詰ったときは、それでも続けられるように聖霊が励ましていただきます。

コリント第一 15 : 58

15:58 ですから、私の愛する兄弟たちよ。堅く立って、動かされることなく、いつも主のわざに励みなさい。あなたがたは自分たちの労苦が、主にあつてむだでないことを知っているのですから。